

【水の作文大賞】

守りたい、おいしいお水

熊本大学教育学部附属中学校 三年 釜贇 健太郎

「日本は水に恵まれている。」

私は普段の生活の中でよく、このことを感じる。お風呂、洗濯、料理：使いたいときに蛇口をひねれば、すぐにきれいな水が得られる。私が今年行ったニュージーランドでは、水はとても貴重だった。首都ウェリントン年の降水量は一二五六ミリメートル。私が住む熊本市の年降水量約二〇〇〇ミリメートルと比べると、はるかに少ない。ホームステイ先のロトルアでも、三ヶ月も雨が降らなかつたそうだ。ホストファミリーの家では、タンクに雨水をためて、その水を利用して生活していた。お風呂の水も、一度薬できれいにしてから使っている。

これは私にとつてとても驚きだった。熊本では、雨が降ることは普通であつて、水も十分得ることが出来る。水道局で処理された水だから、安心して使うことができています。だから、雨が降って「やっつたー！水がゲットできる！」と思つたことは無かつたし、ホストファミリーが風呂水に薬を溶かしている姿は衝撃的だった。「水道水は飲まない方がいい。」と言われたのは初めてだった。私はこの経験を通じて、日本、熊本の水がどれだけ素晴らしいかを実感し、当たり前前に水が飲める、使えることに感謝しないとイケない、と思つた。

ただ日本だつて、いつ水不足になるかは分からない。使い過ぎれば無くなつてしまう。きれいでおいしい水を、大切に守つていくために何が出来るだろう、と考えた時、小学校三・四年生の社会の授業を思い出した。

この授業では、身の回りの生活の中で何が私達にできるのかを出し合つた。

例えばお風呂の残り湯。これを捨てずにとつておいて洗濯に使う。私

の家でも行つてゐる取り組みだ。これを行うことで、一日約一〇〇リットル、一Lペットボトル約一〇〇本分の節約になる。

また私の母は、お米のとぎ汁を、ダイコンなどのアク取りに使つてゐるそうだ。炊飯に使う水の量は多く、ほぼ毎日炊くので相当な水を使うことになる。しかしこうすれば、水を無駄なく活用することが出来る。ちよつとしたことだが、他にも、水道から出す水の量を鉛筆一本分くらいに合わせたり、シャワーを一回一回止めたりしている。

最初に言つたように、私は、日本は水に恵まれていると思う。世界の国々では、水たまりから水をくんだり、海水を真水に変えたりなど、そう簡単に水を得ることができない。ニュージーランドへ行つたことは特に、私の水への考えを変えた。

私達は、水が無いと生きていくことはできない。だから水を大切に守つていかなければならない。そのためにまず必要なのは、「水があつて当たり前前」という意識を変えることだ。水は無限であり、有限でもある。循環しているとはいへども、使えば無くなる。ただその使い方さえ変えれば、より長く、水を使つていけると僕は考える。まずは、きれいで使うことができる水があることに感謝の気持ちを忘れないようにしたい。その上で、お風呂、洗濯、料理、歯みがき：様々な場面で工夫を凝らし、水の使用量をできる限り抑えていきたい。これが、水を守つていく一ステップになるのではないかと、私は考えている。